

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.153

2014年11月11日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

みんなで声を響かせよう

音楽教育部会

授業研究会 開催

研究所音楽教育部会が、三田市の小学校において授業研究会をおこないました。

4年生での授業で、教材は『チャレンジ!』『ねえ 歌おう』の2曲。『チャレンジ!』は斉唱で、「みんなで声をそろえて歌う」ことをめあてにとりくまれています。『ねえ 歌おう』は、オブリガートの副旋律が入っている、二部合唱に初挑戦する曲です。どちらの曲も、音域の低い部分を丁寧に歌うことをポイントにした授業でした。



授業の後半では、協力研究所員による指導の場面もありました。まずハミングから始め、おなかを使って息を吐きながら高い音や低い音を出すことを、子どもたちが実感できるように組み立てられていました。その後、徐々に母音の音を出し、歌詞へと移行していきながら、息を吐く・息をつなぐことに気をつけて練習されました。

研究協議でも、「息をはいて声を出す」ことを中心に、活発な協議がなされました。おなかや息を意識する他の方法として、「あくびをするように息を吸い、そのままはく」「内緒話のように始め、息と声を足していく」なども効果的であるという話や、声変わりする時期は無理をしない方がいいが、このような歌い方をしていればある程度声が出るという話がありました。また、子音が常に入る欧米の言語と母音で終わる日本語の違いにまで発展するなど、たいへん学びの多い時間となりました。

協力研究所員からは、以下のような助言がありました。

○学校行事等の中で、声量の大きさを問われることなどもあるが、指導者は音楽的にもとめるところを追究し続け、それにもとづいて子どもたちができたことを認めることが大事である。

○音楽に限らないが、指導者も学び続けることが大事。苦しいこともあるが、その分だけ喜びが返ってくると思って続けてほしい。

指導者の声かけが子どもたちの「上手に歌いたい!」という気持ちと一致すると、歌声が大きく変わることを実感した授業研究会となりました。